

# 社会資本整備総合交付金

## 都市再生整備計画 事後評価シート

### 藤沢地区

#### 都心の活動を創生する都市機能の再構築の推進

平成28年3月

神奈川県藤沢市

様式2-1 評価結果のまとめ

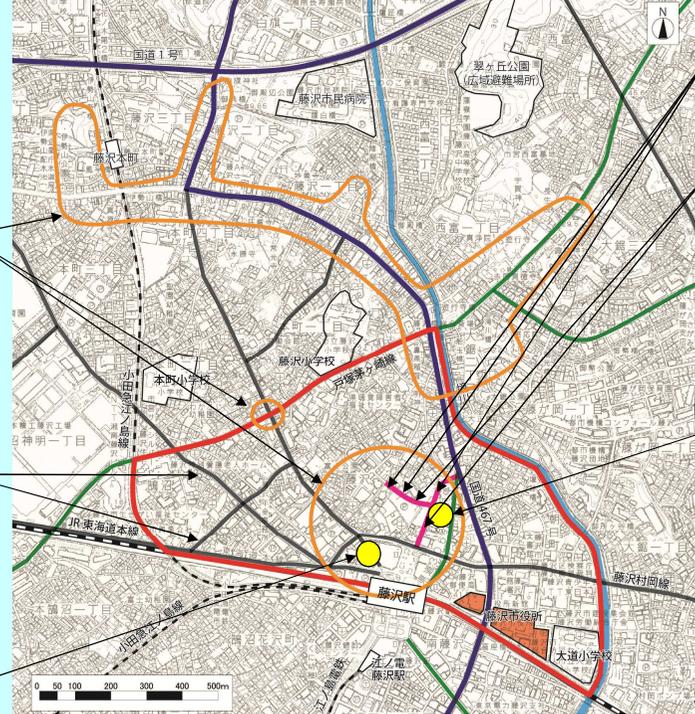
都道府県名	神奈川県		市町村名	藤沢市		地区名	藤沢地区			面積	70ha				
交付期間	平成24年度～平成27年度		事後評価実施時期	平成27年度		交付対象事業費	1,360百万円	国費率	0.4						
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業		【道路】藤沢駅北口通り線、藤沢駅北口東西線、市道藤沢83号線										
			提案事業		-										
	当初計画から削除した事業		基幹事業		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
			提案事業		【地域生活基盤施設】藤沢西部地区耐震性貯水槽		地区北端(広域避難場所)に整備予定の施設であり、本地区では市役所新庁舎で防災機能の確保及び強化を図るため、第2回変更において削除		目標2に影響するが、指標はそのままとした。また、事業区域を縮小した。						
	新たに追加した事業		基幹事業		【地域生活基盤施設】①藤沢駅自転車等駐車場 【高質空間形成施設】②藤沢駅北口デッキエスカレーター、③藤沢駅北口通り線、④藤沢駅北口東西線		①地域の駐輪需要に対応するため、第1回変更で基幹事業へ移行 ②地区内通行の利便性向上のため、第2回変更で追加 ③④当該道路の高質化のため、第1回変更で追加		①関連事業から基幹事業への移行のため、目標値は変更しなかった。 ②～④指標1、2に影響するが目標値は据え置きとした。						
			提案事業		-		-		-						
交付期間の変更		当初	平成24年度～平成27年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-								
		変更	なし												
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期				
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み						
	指標1	来街者数	人/日	63,500	H23	63,500	H27	-	79,800			○	あり	-	道路整備により区内を回遊するネットワークが強化され、賑わいが創出された。 また、道路は電線類を地中化し、平板ブロックやポラードの設置により安全で快適に通行できる空間としたほか、各所に案内看板を設置したことで回遊性も向上している。
指標2	広域避難場所までの移動時間	分	30	H23	24	H27	-	24	○	あり	-	道路整備により、藤沢駅から広域避難場所(翠ヶ丘公園)への避難が短時間で可能となった。また、電線類の地中化や高低差の解消により、障害の少ない避難経路としたことで避難を安全に、円滑に行えるようになった。	-		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期				
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み						
	その他の数値指標1	藤沢駅北口の自転車等収容台数	台	2,893	H23	/	/	/	/			/	/	地域の駐輪需要に応えるとともに、自転車走行空間の整備により、自転車利用の利便性が向上した。	-
	その他の数値指標2	藤沢商工会館の会議室等の利用実績	件・人	1,632件 43,699人	H26	/	/	/	/			/	/	道路整備により藤沢商工会館の利便性・拠点性が向上し、施設の利用件数や利用者数が増加した結果、賑わいや人の流れが創出されている。	-
その他の数値指標3	藤沢駅北口へのバス所要時間の短縮	分	6.8	H24	/	/	/	/	/	/	道路整備により藤沢駅へのバス所要時間が短縮され、アクセシビリティが向上し来街しやすくなったほか、まちづくりにおける環境負荷低減に貢献した。	-			
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車利用の多い藤沢駅北口前に駐輪施設が整備されたことにより、北口周辺の駐輪環境が向上し、市民に積極的に活用されている。放置自転車等も減少し、事業前(平成23年11月調査)では163台であったが、平成27年11月調査では84台にまで減少している。</li> <li>・駅前商業地でありながら低未利用地となっていたエリアで、道路整備によりコンビニエンスストアやスーパーマーケットが立地するなど沿道のまちづくりが進み、土地活用が促進された。スーパーマーケットの来客数も開業時から増加し現在は月間10万人以上と、日常生活における利便性が向上し、賑わいが創出されている。</li> <li>・整備後の北口通り線はイベントにも利用され、藤沢駅北口エリアにおいての遊歩の益イベント参加者数は、整備前のH26年度40,400人からH27年度は47,000人と増加し、賑わいが創出された。</li> </ul>														
5) 実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	藤沢北口地域で施工中の工事関係者による「藤沢北口駅前地区安全衛生協議会」を発足し、月1回の頻度で進捗状況の確認や地域の安全に係る課題を確認した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	今後も、工事が集中する地域は市と施工業者、民間事業者が相互に連携し、円滑な工事進捗と地域の安全の確保に努めていく。					
	住民参加プロセス	①藤沢北口駅前地区まちづくり検討会による「藤沢北口駅前地区整備計画」の策定(平成17年度) ②藤沢駅周辺地区再整備構想検討委員会による「藤沢駅周辺地区再整備構想・基本計画」の策定(平成23年度) ③事業期間中は、地元住民に対し事業進捗説明会を実施し、地元住民との調整を図りながら事業を実施した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				①②③	①今回整備された道路を活用した賑わいの創出や回遊性の強化、また地域主体によるイベントの運営・管理を検討していく。 ②計画に位置付けた重点プロジェクトを推進し、藤沢駅周辺地区の再活性化をめざす。 ③事業期間中は周辺環境への影響に配慮し、適宜工事進捗を説明する機会や意向を伺う場を設けるなど、地元住民と調整を図りながら事業を進める。					
	持続的なまちづくり体制の構築	地元事業者、関係団体、市等で構成する「藤沢駅北口デッキにぎわいワーキング」を設置し、藤沢駅北口駅前の公共施設を活用した地域主体の賑わい創出の取り組みを検討している。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	平成26年から検討を行っており、地域主体による賑わい創出の取り組みの実現に向け、詳細を検討していく。					

## 様式2-2 地区の概要

### 藤沢地区(神奈川県藤沢市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
	賑わいのある中心市街地の再生 目標1 活力ある中心市街地の形成 目標2 防災機能が高く安全で安心して暮らせる魅力的なまちづくり	来街者数	単位:人/日	63,500 H23	63,500 H27
広域避難場所までの移動時間		単位:分	30 H23	24 H27	24 H27
藤沢駅北口の自転車等収容台数		単位:台	2,893 H23	-	3,362 H27
藤沢商工会館の会議室等の利用実績		単位:件・人	1,632件・43,699人 H26	-	2,011件・58,261人 H27
藤沢駅北口へのバス所要時間の短縮		単位:分	6.8 H24	-	2.8 H27

凡 例	
基幹事業	都市再生整備計画事業区域
効果促進事業	提案事業(なし)
効果促進事業	旧東海道藤沢宿案内誘導サイン等設置事業



【道路】  
藤沢駅北口通り線  
藤沢駅北口東西線  
市道藤沢83号線の整備

【高質空間形成施設】  
藤沢駅北口通り線  
藤沢駅北口東西線の整備



【地域生活基盤施設】  
藤沢駅自転車等駐車場の整備



※地域活性化事業(関連事業)  
まちなか壁画

藤沢駅北口通り線



藤沢駅北口東西線



藤沢駅北口通り線(北口デッキから撮影)

※効果促進事業  
旧東海道藤沢宿案内誘導サイン等設置事業



中学通り線 藤沢駅辻堂駅線  
※特定交通安全施設等整備事業(関連事業)  
中学通り線改良事業・藤沢駅辻堂駅線改良事業



【高質空間形成施設】  
藤沢駅北口デッキエスカレーターの整備

まちの課題の変化

- 道路整備や案内板の設置により地区内の回遊性が向上するとともに、駅周辺の土地活用が促進され沿道施設が立地した。また、不足していた駐輪施設の確保や自転車走行空間の整備により、自転車利用者の利便性を高めるとともに、自転車と歩行者が交錯せず安心して通行できるようになった。今後は歩行空間を活かしたさらなる回遊性・滞在性の向上や地区の活性化が望まれている。
- 電線類の地中化や広幅員の歩道整備により、広域避難場所への安全な避難経路が確保され、また避難にかかる時間が短縮された。引き続き地域の防災機能の強化を進める必要がある。
- 地区内の回遊性は高まったが、藤沢駅南北間の通行が鉄道で分断され動線が十分でないなど、駅周辺が一体となって賑わいを創出するための連携が図られていない。また、交通結節点としての藤沢駅の機能強化が望まれている。
- 藤沢駅北口東西線からの回遊動線が未整備であり、賑わいや人の流れが周辺商店街へ十分に波及していかず、北口地域の東西方向の回遊動線の強化が求められている。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 藤沢駅周辺のさらなる回遊性の強化や活性化のため、来街者が滞留するための空間や仕組みづくり、歩道の高質化を進める。また、広い歩行空間を活かした賑わいの創出を図るため、オープンカフェやマルシェ等のイベントの実施や、地域活力の増進のためのエリアマネジメントの仕組みづくりを検討していく。また、北口のデッキの高質化などにより、交通施設としての駅前から、駅及び駅周辺の回遊及び交流の核づくりを目指す。
- 安全・快適な歩行空間を維持するため、特殊街路のプロムナード化や放置自転車等防止の意識醸成を図る。また、駐輪需要の高い藤沢駅北口の駐輪施設の設置を検討する。
- 藤沢駅の南北地域が一体となった、湘南・藤沢の玄関として相応しい空間づくりのため、藤沢駅南北の自由通路の拡幅、地下通路の高質化により南北の連携強化を図る。
- 藤沢駅北口南北線(仮称)(藤沢駅北口東西線から藤沢町田線に通じる市道)の拡幅整備により、東西方向の回遊性を強化する。
- 誰もが利用しやすい藤沢駅とするため、円滑な乗換え等に寄与する交通広場の機能向上や高低差の解消、エスカレーター等の設置等を推進するとともに、まちの玄関としてのおもてなし機能の強化を図る。
- 市役所新庁舎整備に合わせ、さらなる地区の防災機能を強化と、災害対応能力の向上を図る。